

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月12日

【評価実施概要】

事業所番号	3070105295		
法人名	有限会社きのしたメディカルサービス		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地	和歌山県和歌山市禰宜920-1 (電 話) 073-465-3333		
評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成20年12月12日

【情報提供票より】(20年10月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算	8.85人

(2) 建物概要

建物構造	木造2階建て 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 - 53,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(家賃6ヶ月分 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ — 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月24日現在)

利用者人数	16 名	男性 4 名	女性 12 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	7 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 68 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人泰伸会きのしたクリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

隣接するクリニックと医療連携がなされており、看護師の密接な訪問により健康管理や相談が行われ、また、医療面でも体調が悪いときはすぐに対応することが出来、利用者や家族が安心できる支援体制がとられている。利用者のペースを尊重し楽しく生活できるよう職員もおだやかな態度で利用者に接している。毎月家族に送る「おたより」に家族の意見欄を設けるなどして家族の希望や意見を把握し、出された意見等は適切に対応し運営に役立てている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の指摘事項のうち、地域密着型サービスとしての理念については、職員間の話し合いで改善が行われている。その他の指摘事項についても、それぞれ改善が行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員に評価票を配り意見を書いてもらい、会議を開いて検討し管理者が取りまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、今後の行事の検討、職員の確保、身体的拘束、看取りなどを主な議題とし、またメンバーに夕食を食べてもらって感想を聞くなどして、これらの意見をホームのサービス向上の参考としている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に毎月送る「おたより」に家族の希望や意見を書く欄を設け、また随時職員の態度や設備等について管理者へ意見を書く用紙を送り、家族から意見、要望、不満の声を聞いて運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームで行う行事に地元の老人会の人々を招いたり、近くの幼稚園児が訪れる交流会を定期的に開催している。また地域の文化祭等にも希望者が参加し、地域の溝掃除にもホームとして参加して人々との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	職員が話し合い「笑顔と笑顔が地域をつなぎみんな楽しくかがやきある生活の場へ」という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関を入ったところに掲示し、職員間で共有しており、理念を念頭に日々の業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの敬老会、クリスマス会などの行事に地元の老人会の人々を招いたり、地域の幼稚園との交流会を定期的に行い、園児が訪れる等、にぎやかに交流している。また地域の文化祭等にも希望者が参加したり、自治会の掃除にもホームとして積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員に評価票を配り意見を書いてもらい、会議を開いて検討し管理者が取りまとめた。前回の外部評価の指摘事項のうち、地域密着型サービスとしての理念については、職員間の話し合いで改善が行われている。その他の指摘事項についても、それぞれ改善が行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2～3月に一度開催しており、構成メンバーにホームの入居状況、行事予定・行事の実施状況、職員研修などについて報告し、今後の行事の検討、職員の確保、身体的拘束、看取りなどについてメンバーから質疑や意見が出されている。またホームの夕食を食べてもらい感想を聞くなどして、これらの意見をホームのサービス向上の参考としている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、利用者が入居する場合など運営上疑問が生じたときは随時電話で相談しアドバイスを受けるなど連携を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回家族に「おたより」を出し、利用者の健康状態や暮らしぶり、行事などを記載し報告している。また利用者の体調に変化があるときは、すぐに連絡している。金銭管理についても、毎月の収支、残高を記載し、月一回の来訪時に家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に送る「おたより」には、家族の希望や意見を書いてもらう欄を設けている。また毎月利用料の請求書を送付するときに、随時、職員の態度や設備等についての管理者への意見書用紙を同封し家族から意見、要望や不満の声を聞いて運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はユニット間の移動であり、パート希望者以外は正職員とし有給休暇を取得しやすい環境にし離職はできるだけ少なくするよう努めている。新しい職員が入ってきたときは、先ず日勤とし、利用者と一緒に利用者とのことが分かってくるまで夜勤に入るようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	デイサービスと共同で年間計画を立て、介護保険制度、身体拘束、秘密保持、感染症などの勉強会を月1回行っている。またグループホーム管理者研修、介護支援専門員研修、介護福祉士等の研修や、県グループホーム連絡会の開催する新任職員研修や各種研修などの外部研修にも、職員は希望に応じて参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会に加入し同業者と交流しており、研修会に参加したり、グループホーム間の相互実習を行いサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者や家族が訪れて先ずホームの生活を体験してもらっている。入居後は、その人の生活の仕方を観察すると共に、センター方式で1週間の記録を書くことにより、職員の対応の仕方を決め、徐々にその人にホームの雰囲気に馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は介護するほう、されるほうの立場でなく、一緒に楽しんだり、料理や家事などを行うことにより、共に支えあう関係をつくるよう努めており、その過程でお年寄りの昔の話の中から暮らしの知恵を聞いたり、アドバイスを受けることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画を作成するとき利用者から意向を確認しており、また利用者の日ごろの言葉や行動などから、希望や意向を汲み取るように努めている。なお意向を聞くのが困難な場合は、家族や関係者から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1度のサービス担当者会議で職員は意見を出し合い、アセスメントやモニタリング、職員の気付きや本人の意向、家族の希望等を踏まえて、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に1度見直している。また本人の体調等に変化が生じたときは、その都度見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するクリニックと医療連携体制をとっており、月曜日から金曜日まで看護師の訪問を受け健康管理や相談が行われており、緊急の場合は24時間連絡可能になっている。なお年2回の遠足などの外出支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により、主として隣接の協力医療機関で適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に向けた方針を本人、家族、主治医、職員間で話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねることがないように、外部研修への参加や内部研修で周知しており、また利用者の個人情報は洩らさないようにし、記録類は職員室の書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務の都合を優先させずに、起床、入浴、就寝時間等利用者一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、声かけを行うことによって希望を聞き、沿えるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事について利用者の感想を記録し調理の参考にしており、また出来る人は食前にお茶を注いだり、おやつを食べた後のコップ洗いなどを手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午前中が基本であるが、利用者には毎朝入浴の希望を聞いて、湯の温度もその都度調整しており、最初に入りたいという人にも希望により対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者にはもっている力を活かし、広告紙で箱を作ったり、洗濯物のたたみなど家事手伝いの役割をしている。また、利用者により趣味のカラオケを歌ったり、計算問題をしたり、テレビを見たりして楽しんでおり、職員はそれを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の体調、時間帯に配慮して、散歩などの外出したい人にはできるだけ希望に沿えるよう支援している。また隣接するクリニックへリハビリに行く外出や、デイサービスとの間の中庭にテーブルを出してお茶会を行い外気に触れることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関は日中(午前5時から午後7時半まで)鍵をかけていない。居室は本人が希望するときだけ鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回隣接するデイサービスと共同で通報、消火、避難などの防災訓練を行っている。また地域の一般の住家とは若干距離が離れているので、協力の働きかけは行われていないが消防署が比較的近いところにある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎回記録しており、利用者の体調に応じてメニューを変更している。なお料理は肉・魚を日によって変え、野菜や果物を添えて栄養のバランスをとるよう配慮している。食事のとき以外にも水分の摂取は入浴後や午前と午後に行っており、夜間でも部屋を訪れ、目を覚ましておれば声かけしている。希望者には夜間の水分を枕元に置いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間の壁面には行事の写真を貼ったり、多数のもみじの葉(布製)を貼り、食卓には菊の花を飾り季節感を出すようにしている。また2階からは田畑や山の風景が眺められ、季節の移り変わりを感じることができる。室内の明るさも調整され、テレビの音量も適当と感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の協力で使い慣れたタンスやテレビを置き、また好みの物を飾って居心地よく暮らせるよう配慮している。		